

新宿の地下街・地下道を歩く

JR新宿駅 新南改札前 集合 新宿住友ビルで解散予定 最寄り駅は都営地下鉄 大江戸線 都庁前駅 約5.2km

1. JR新宿駅 新南改札 1991（平成3）開設、2010（平成22）改修

バスタ新宿 2016（平成28）竣工

2F バスタ新宿出入口、国道20号接続部分、JR新宿駅（新南改札、甲州街道改札、ミライナタワー改札）

3F タクシー乗降場、高速バス降車場、新宿区コミュニティバス「新宿WEバス」乗降場、東京観光情報センター

4F 新宿高速バスターミナル（高速バス乗降場、発券施設、待合所、管制室）、店舗

2. 新宿サザンテラス 1998（平成10）オープン。小田急線の線路上に350mの人工地盤を築き、遊歩道と店舗を配している。

3. JR東日本本社 1997（平成9）竣工 新本社ビル設計共同企業体（日建設計、ジェイアール東日本建築設計事務所）

28F・R1F・B4F 高さ約150m

JR新宿ビル 1969－2023（昭和44－令和5）

4. 小田急サザンタワー 1998（平成10）竣工 小田急Gビル設計室（大成建設、坂倉建築研究所、小田急電鉄）

36F・R1F・B4F（B1－B3F 駐車場、1－4F 店舗・レストラン、5－18F オフィス、19－35F ホテル） S造 高さ約151m

5. JR新宿ミライナタワー 2016（平成28）竣工 東日本旅客鉄道ほか 33F・B2F 高さ約168m

1－4F NEWoMan ショップ、7F クリニック、8－32F オフィス

6. タカシマヤタイムズスクエア 1996（平成8）竣工 本館 14F・B1F 南館 7F

7. NTTドコモ 代々木ビル 2000（平成12）竣工 27F・R1F・B3F S造（地下部 SRC） 高さ約240m（頂部272m）

14Fまでがオフィス、15Fから上は機械室。頂部にはアンテナの吊上や修正に使われるクレーン状の塔（デリック）が付いている。北側壁面の大時計の直径は約15m（2002年設置）。2011年までは世界一高い時計台だった。

8. 甲州街道・国道20号 江戸期、甲州街道は日本橋を起点として、和田倉門、馬場先門、日比谷交差点、桜田門と内濠沿いに江戸城の南側をまわり半蔵門へ。ここからは新宿通りとほぼ重なる道筋で西へ向かう。かつては四ツ谷駅付近に枡形の四谷見附があったためクランクしており、駅前から150mほどは北側の三栄通りを通っていたが、四谷見附橋が架けられて直線化された。大木戸交差点から西は、現在は南側の新宿御苑の下をトンネルで通過するが、かつては現在の新宿通りが甲州街道だった。

9. 東京メトロ副都心線 新宿三丁目駅 2008（平成20）開業。

明治通り（環5） 1927（昭和2）の都市計画に基づき、東京初の環状道路となる環状5号線として整備された。明治神宮外苑と明治神宮（内苑）の間を通り、明治神宮表参道を横切ることから明治通りと呼ばれるようになったらしい。また戦後の一時期（1955～68（昭和30～43））には、渋谷～池袋間の明治通りをトロリーバス102系統が走っていた。

10. 花園神社 徳川家康が江戸に入った1590年には既に存在しており、後に内藤新宿が開かれると、その鎮守として祭られるようになった。元は現在地よりも約250m南にあったが、寛政年間にそこを朝倉筑後守が拝領したため、尾張藩下屋敷の庭の一部である現在地に遷座。多くの花が咲き乱れた花園の跡だったことから「花園稲荷神社」と呼ばれるようになったと伝えられる。1965（昭和40）現在の社殿に建て替え。それまでは靖国通り方向からの参道正面に社殿があったが、東向きに変更。また、大鳥神社を本殿に合祀し、社名を「花園神社」に改めた。1967年には、唐十郎が率いるアングラ劇団「状況劇場」が紅テント公演をするにあたって境内を提供した。近年は、消えつつある「見世物興行」に境内を提供している。

11. ゴールデン街・花園街 新宿駅東口にあった闇市（尾津組の竜宮マーケット）が、1950年頃、東京都によって撤去される際、代替地として都電沿いの現在地があてがわれたもの。当時は新宿駅周辺の繁華街から遠かったことから、ほとんどの店が飲食店の名目で赤線まがいの営業をしていた。風俗営業法の許可をとらず、俗称で青線と呼ばれ、1Fは飲み屋、2Fは泊まりの売春宿、3Fはちよんの間という構成が多かったといわれる。

売春防止法施行（1958年）の後は飲み屋が密集する「ゴールデン街」と名を変えた。この街の店は、文壇バー、オカマバー、ボッタクリバーの3種だとも言われた。店内は3坪または4.5坪と狭く、カウンターに数人並ぶと満席になる。文壇バーには、作家やジャーナリスト、編集者らが集まり、全共闘世代などが熱い議論や喧嘩を繰り広げ、佐木隆三や中上健次などが常連として知られた。バブル期には地上げ、放火事件などもあったが、近年は徐々に健全化しつつある。2016年4月12日に地区北側の一角が放火とみられる火災で焼失。

旧四谷第五小学校（吉本興業東京本部） 1934（昭和9）東京市立四谷第五小学校として建てられた。RC・3F。戦後、新宿区立となる。1995（平成7）四谷第七小学校との統合により廃校。その後は新宿区の会議室、放置自転車保管場などとして使用されていたが、2008（平成20）以降は吉本興業東京本部のオフィスとして貸し出されている。

新宿遊歩道公園「四季の道」 都電の大久保車庫（現 新宿文化センター）からの回送線の敷地だった場所。新宿発の路面電車が1970（昭和45）に廃止された後、1974（昭和49）に公園化された。

12. 靖国通り 靖国神社の前を通ることから、大正通りから戦後改名された。関東大震災後の帝都復興事業の際に計画決定され、千代田区内の部分は復興土地地区画整理事業を利用して昭和初期までに拡幅建設が行われたが、新宿区内の部分は土地地区画整理が行われなかったため、拡幅が完成したのは戦後になってからだった。

13. 新宿末廣亭 当初、八木節の堀込源太が所有した堀込亭だったものを、浪花節の末廣亭晴風が取得して大正初年に末廣亭とした。1921（大正10）に現在地に移転。

14. 新宿二丁目・旧新宿赤線跡 付近では芥川龍之介の父が耕牧舎という牧場を経営していたが、周辺の都市化に伴い1913（大正2）に廃業。この跡地に、甲州街道沿いに建ち並んでいた遊郭群が移転命令により1918～21（大正7～10）の間に移転し、一ヶ所にまとめられ、赤線となった。またその周辺には青線と呼ばれるエリアが広がっていた。売春防止法の施行後はゲイバーなどが増加している。

赤線 特殊飲食店として場所を限って売春が許容された地域を、地図上で警察が赤く囲んだことから、赤線と称された。遊郭を含む多くの花街がこの赤線に移行したが、売春防止法の施行（1958（昭和33）年4月1日）によってこれも廃止された。赤線・青線の呼称が有名になったのは昭和21年以降だが、名称自体はそれ以前から同様に使われていたという。

青線 風俗営業法による警察の許可を取らず、食品衛生法に基づく保健所の飲食店営業の許可のみで、売春を行う店が集まっている地域。いわゆる非合法売春地。合法的な赤線に対して、非合法的私娼街が青線と呼ばれるようになったが、警察が地図上で青い線で囲う位置指定などはされていなかった。

明治通りバイパス（環5-1） 1946（昭和21）都市計画決定、戦後の土地地区画整理で甲州街道以北は完成したが、新宿御苑の西側は苑内の樹木への影響も懸念されて未開通だった。2006（平成18）事業化。北向きが地下になった2層道路に変更され、2022（令和4）末に完成。

15. 新宿通り 新宿通りは四谷麴町台地の尾根筋にあたり、神田川（荒川水系）と古川の分水嶺でもある。内堀通りの半蔵門交差点から麴町、四谷を経て、内藤新宿、新宿追分（新宿伊勢丹がある交差点）、新宿駅東口駅前に至る。甲州街道は新宿追分から南下し、新宿駅南口側の甲州街道陸橋を経て国道20号線で甲府、更には長野県の下諏訪へと続き、中山道と接続する。新宿追分から西へ向かうのは青梅街道。

16. 新宿三丁目イーストビル 2007（平成19）完成 B1-8F：**新宿マルイアネックス** 9-14F：**新宿バルト9**（シネコン）

京王新宿三丁目ビル 京王電気軌道（現 京王電鉄）の起点駅である新宿追分駅は、1915（大正4）に追分交差点南側の甲州街道上に開設された。その後1927（昭和2）にこの場所に京王新宿駅ビルが完成し移設。京王新宿駅ビルは日本初のターミナルデパートで、当初は新宿松屋（銀座などの松屋とは別）が入居、その後、東京パン、京王パラダイスを経て、東横百貨店新宿店となった。1945（昭和20）に京王線の新宿駅が西口の現在地に移転したため、駅は廃止。戦後は京王電鉄本社として1988（昭和63）まで使用された。老朽化のため建て替えられ、現在は京王新宿三丁目ビル（1989竣工）が建っている。

追分だんご本舗

江戸～明治中期に存続していた「追分だんご」を、1930（昭和5）に藤井氏が再興。1940（昭和15）から現在地で営業。

17. 新宿追分（明治通り・新宿通り交差点） もとは「牛馬を追い、分ける場所」を意味したが、街道の分岐点の意味にもなった。新宿追分は、江戸期にはT字型の交差点だったが、明治通りの建設により、現在は十字路になっている。

18. 伊勢丹 新宿店

- 1886（明治19） 初代・小菅丹治が、現在の千代田区外神田・秋葉原駅前に、伊勢屋丹治呉服店を創業。
- 1923（大正12） 関東大震災で焼失し、再建の後、百貨店形式の販売スタイルに変え、新宿へ進出することにした。
- 1933（昭和8） 神田店を閉店し新宿本店開店。
- 1935（昭和10） 新宿本店に隣接する百貨店ほてい屋（1926年（大正15）開店）を買収。
- 1936（昭和11） 旧ほてい屋部分（本館の新宿三丁目交差点に面した部分）と建物を一体化。
階高を合わせた建物をあらかじめ設計しており、一体化時に外装も整えた。
本館外装はアール・デコ様式。屋上に至る階段室のステンドグラスが美しい。東京都歴史的建造物。
- 1945（昭和20） 戦後、3階以上を進駐軍に接収される。
- 1953（昭和28） 全館接収解除。本館建物は、戦後も数度にわたり増改築が行われ、現在に至っている。

19. 新宿マルイ本館 2009（平成21）新築開店。同所はかつて帝都座、大阪屋酒店などがあった場所。

20. メトロプロムナード 東京メトロ丸ノ内線 新宿三丁目駅、新宿駅

- 丸ノ内線の池袋－新宿間が全線開通した1959（昭和34）に、新宿三丁目駅、新宿駅とメトロプロムナードも完成。
- 丸ノ内線は比較的浅い位置に造られたため、メトロプロムナードはかなり低い。

21. 旧 新宿三越 三越は、1923（大正12）の関東大震災直後に追分交番角に「三越マーケット」を出店。その後、新宿駅前の現アルタの場所に「三越新宿分店」へ移った。新宿三越は1930（昭和5）に開店。2005（平成17）まではデパートだったが、その後、業態転換し新宿三越アルコットを経て、2012（平成24）にビックロ（ビックカメラ・ユニクロのコラボ店舗）となった。2022（令和4）にユニクロが退去したため、現在は**ビックカメラ**。

22. 紀伊國屋書店 本店 1927（昭和2）創業。1964（昭和39）に現建物が完成（設計：前川國男）。新宿通りに面した小広場スペースや、裏側への通り抜け空間が魅力的。また4Fの紀伊國屋ホールは小劇場演劇のメッカとなっている。本社は現在は目黒区下目黒3丁目に所在。創業者の田辺茂一の先祖は紀伊徳川家の江戸藩邸に勤める足軽。商売を始めたときに出身地に因んだ屋号をつけた。当初は材木問屋だったが、その後、炭問屋になり、その店先で書籍を扱ったのが書店の始まり。

23. 新宿中村屋 和洋菓子、パン、カレー、中華まんなどで知られる老舗。

- 1901（明治34） 本郷の東大正門前にあったパンの販売店「中村屋」を、相馬愛蔵・良夫妻が買い取って創業。
- 1904（明治37） クリームパンを考案して販売。
- 1907（明治40） 新宿に出店。
- 1927（昭和2） 喫茶部を開設。ラス・ビハリール・ボースが提案したカレーライスとボルシチを売り出す。
- 2014（平成26） 新本店が完成。

新宿高野

- 1885 (明治18) 繭仲買・中古道具を本業とし、副業で果実を扱う店として創業。
- 1900 (明治33) 果実専門の「果実問屋・高野商店」となる。
- 1920 (大正9) マスクメロンの販売を開始。
- 1921 (大正10) 現在地で営業を始める。
- 1926 (大正15) フルーツパーラー開店。
- 1969 (昭和44) 現本店ビルが完成。
- 1983 (昭和58) 新進芸術家のためにギャラリー新宿高野を開く。～2005 (平成17) まで

24. 新宿サブナード

1973 (昭和48) 完成。靖国通りとモア4番街の地下にT字型に広がる地下街で、B1Fが商店街、B2Fは駐車場 (400台)。

そもそもは都市計画駐車場として、路上駐車等による交通渋滞を解消すべく地下に駐車場を造ろうとしたのが始まり。経営のプラスになるよう、そこに地下街が併設された。現在は新宿サブナード株式会社が、地下街と地下駐車場を経営している。東西の長さは300m以上あり、車の出入口は、東端のピカデリー付近に入口、新宿区役所前に出口、そして西端のプリンスホテル近くに出入口と、各2ヶ所がある。また、地下街は西武新宿駅とメトロプロムナードを結んでいる。西武新宿駅からJR新宿駅への最短経路はJR線沿いに直線的に南下するルートだが、それだとサブナードに人が流れないとサブナード側が反対したため、東側に迂回する形態になっている。近年になって直線的に南下するルートも都市計画決定されたが、着工・完成時期は未定。

25. 西武新宿駅

西武鉄道は戦前に高田馬場までが完成。戦後、新宿駅までの延伸が許可されたが、現在のルミネエスト新宿 (かつての新宿民衆駅、新宿ステーションビル) の北側にホームを6輛分の長さで造ることを考え、その駅ビルの完成を待つ形で、1952 (昭和27) に現在地に仮駅舎を造った。

その後、新宿駅東口ビルのルミネエスト新宿は1964 (昭和39) に完成したが、この頃には西武新宿線の乗客が大幅に増えて、8輛編成にする必要が生じていた。しかし新宿駅東口ビルの北側には8輛分の長さのホームを造ることができないことが判明し、1965 (昭和40) に新宿駅東口ビルへの乗り入れは中止。

現在の西武新宿ビルは、1977 (昭和52) 完成 25F・B4F ホテル：600室 店舗：74 最高高さ94.5m

26. 歌舞伎町シネシティ広場

戦前までの歌舞伎町は住宅が中心の街だった。町内には大村藩 (肥前国彼杵 (そのぎ)) 藩主の屋敷もあった。第二次大戦の戦災で一帯は焼失。戦後、戦災復興土地地区画整理事業が行われることになり、その際、地元の有力者の鈴木喜兵衛らが老若男女が楽しめる興行街を建設することを提案。歌舞伎劇場の誘致も計画された。東京都で戦災復興計画を担当していた石川栄耀 (ひであき) の提案で、町名を歌舞伎町とすること、劇場街の中心に広場を作るプランが実行に移された。結果的に歌舞伎劇場の誘致はできなかったが、新宿コマ劇場やミラノ座など、劇場や映画館が建ち並ぶ興行街となった。広場のかつての名称は「歌舞伎町ヤングスポット」。またかつては広場内には噴水池があり、早慶戦の後などには学生が飛び込んだりする場所にもなっていた。

27. 東急歌舞伎町タワー

新宿東急文化会館 (1956-2014 (昭和31-平成26)) 跡地に建設された超高層複合ビル

48F・B5F 高さ約225m 設計：久米設計・東急設計コンサルタントJV 2023 (令和5) 竣工

外装デザイン設計：永山祐子建築設計。シネシティ広場付近にあったとされる蟹川の水源や「歌舞伎町弁財天」から着想を得て、「水」や「水の女神」をテーマにし、噴水をイメージ。

B1-B4F Zepp Shinjuku (TOKYO) : ライブホール。1,500人収容。 1F バスターミナル

2-5F アミューズメント施設 6-8F THEATER MILANO-Za : かつてのミラノ座の名前を継承した劇場。約900席。

9-10F 109シネマズプレミアム新宿 : 全8スクリーン752席 音響は坂本龍一が監修

17-38F HOTEL GROOVE SHINJUKU, A PARKROYAL Hotel 39-47F BELLUSTAR TOKYO, A Pan Pacific Hotel

- 28. 新宿東宝ビル** 2015（平成27）完成・開業 S+SRC+RC造 31F・B1F 高さ約130m 設計・施工 竹中工務店
新宿コマ劇場（1956-2008）および新宿東宝会館（1969-2008）の跡地に建設された複合ビル。TOHOシネマズが運営するシネコン、TOHOシネマズ新宿（3-6F）と、藤田観光が運営するホテルグレイスリー新宿（8-30F）が入居。
- ゴジラヘッド・ゴジラロード** 実物大（最初の頃の大きさ）のゴジラの頭部（ゴジラヘッド）が、新宿東宝ビルホテルフロント階（8F）のバルコニーに設置されている。毎日12-20時の9回、毎正時に口から煙（ミスト）を吐き、夜間は眼も明滅するなど、歌舞伎町のランドマークになっている。
- 29. 歌舞伎町セントラルロード（ゴジラロード）** 通り沿いのスピーカーからは毎正時にゴジラの鳴き声が流れる。
- 30. 新宿モア街** モアは「Mixture Of Ages、様々な世代」の意味。面的に歩行者区域を作り、歩車道を含めた全面を自然石で舗装し、武蔵野をイメージしてケヤキの高木を植えるなど、当時としては画期的な試みを行った歩行者空間整備。1989（平成元）完成。2012（平成24）年11月、全国で初めてモア4番街の道路上に常設のオープンカフェを設置。
- 31. 新宿アルタ** 1979（昭和54）竣工。かつてこの場所には三越が出資していた「二幸食品店」があったが、これを三越主導で建て替えたもの。壁面の大型街頭ビジョン（アルタビジョン）は日本初。7階のスタジオアルタでは「笑っていいとも！」の生放送が1982-2014（昭和57-平成26）に行われていた。スタジオアルタは2016（平成28）に休止。
- 32. 新宿駅（ルミネエスト・旧マイシティ）** 1885（明治18）に日本鉄道品川線の駅として開業。現在の4代目駅舎は新宿民衆駅ビルとして1964（昭和39）に完成。その後、新宿ステーションビル、マイシティと名を変え、2006（平成18）にルミネエストとなった。新宿駅の一日平均乗降者数は約350万人で世界一とされる。
- 33. 新宿駅東西自由通路** 2020年7月完成、駅上空にデッキを架ける「新宿グランドターミナル構想」も将来的に実施予定。
- 34. 新宿駅西口駅前広場** 1966（昭和41）完成（設計：坂倉準三）。日本初の立体広場（面積2.4ha）で、地上広場にはバス60系統が乗り入れ、地下駐車場は432台収容。西新宿の超高層ビル街とトンネルで直結している。また小田急百貨店や小田急ハルクの2階部分には新宿エルタワー方面にも繋がるペDESTリアンデッキが1985（昭和60）に造られ、立体的な歩行者空間が創出されている。小田急百貨店の建て替えに合わせて、再整備が行われる予定。
- 35. 都営地下鉄大江戸線 新宿西口駅** 2000（平成12）、大江戸線全線開通の際に開業
- 36. 大ガード** 1921（大正10）に16m幅のガードが造られ、青梅街道架道橋（通称大ガード）となった。その後、1936（昭和11）と1968（昭和43）にも拡幅され、現在は幅約53mになっている。
- 37. 思い出横丁** 戦後の安田マーケット内のやきとり横丁の流れを汲み、往時の露店を偲ばせる約80の飲食店や店舗やが建ち並ぶ。
- 38. 角筈ガード** もともとの青梅街道の道筋。新宿追分で甲州街道と分岐した青梅街道は新宿通りを西進し、現在の角筈ガード（1927（昭和2）完成）の場所で西新宿方面へ抜け、小田急ハルク北側の道を直進して新都心歩道橋下交差点で現在の青梅街道に接続していた。大正期までは踏切だったが、通行本数の増加に伴いガード化された。
- 39. 青梅街道** 新宿区から青梅市を経由し甲府市に至る。起点は現在の新宿三丁目交差点付近の新宿追分。
1603（慶長8） 江戸城築城のため青梅の成木村で採れる石灰を運搬する道路として整備された。当初の名は成木街道だったが、江戸時代中頃には「青梅街道」と呼ばれるようになったという。青梅、大菩薩峠を経由し、甲府の東で甲州街道と再び合流するため「甲州裏街道」とも呼ばれた。甲州街道より二里短く関所が無いと、一般の旅客も多く利用したという。
1869（明治2） 新宿・田無間に乗合馬車が開通。青梅街道は多摩地区と都心を繋ぐ生活道路としても定着した。
1921（大正10） 新宿・荻窪間に路面電車（西武軌道）が開通。後に都電杉並線（都電14系統）となる。街道の地下に営団地下鉄荻窪線（東京メトロ丸ノ内線）が1962（昭和37）に荻窪駅まで開通し、都電は1963（昭和38）に廃止された。

- 40. 小田急ハルク (小田急百貨店仮店舗)** 1962 (昭和37) 小田急百貨店は最初はこの建物で開業。1966年に小田急百貨店新館が完成したため、旧館となり、翌1967年に「別館小田急ハルク」となった。2022 (令和4) に本館が閉館して建て替えに入ったため、現在は小田急ハルクが新宿店。
- 41. 旧 小田急百貨店新宿店** 本館は1967 (昭和42) 完成。14F 設計：坂倉準三 南側のモザイク通りは新宿ミロードと小田急百貨店を結ぶモール空間で、甲州街道上空に架かるミロードデッキを介して新宿サザンテラスとも繋がり、西口・南口界隈への回遊性を生んでいた。2022.10.2に閉店。新ビルは2029年完成予定。48階建て、高さ約260m。上層部はオフィス、低層部は商業施設となる予定。
- 新宿地下鉄ビルディング** 1966 (昭和41) 完成 8F 設計：坂倉準三 現在の小田急百貨店本館の北側部分。東京メトロ丸ノ内線の上部にあたり、地下にはメトロ食堂街がある。完成時点ではここが小田急百貨店新館となった。翌1967年に西口駅ビルが完成し、両者を接続して小田急百貨店本館とした。
- 新宿西口会館** 戦後の安田マーケット内のラッキーストリートの経営者による共同ビルで、以前の建物は1963 (昭和38) 完成。2000 (平成12) に建て替えられ、現在のテナントはユニクロ他。
- 42. 京王百貨店新宿店** 1964 (昭和39) 完成 8F 地下に京王線新宿駅を擁する。南側のルミネ1と合わせた建て替えが計画されており、新ビルは19階建ての見込。京王百貨店の閉館時期は未定。完成時期は2040年代。
甲州街道南側・バスタ新宿西側も先行して再開発される予定で、2023年4月から作業が始まっている。こちらは37階建て、高さ約225mの予定。
- 43. 明治安田生命新宿ビル (旧 安田生命本社ビル)** 1961 (昭和36) SRC 9F・B3F 2020 (令和2) 解体。
建て替え後の新ビルは、23F・B4F 高さ約126m 2025年竣工予定
- 44. 新宿スバルビル 跡地** 1966 (昭和41) 竣工。富士重工業の本社だったが、2014 (平成26) に同社は渋谷区恵比寿に移転。2019 (令和元) に解体。現在、同所は小田急電鉄が所有。今後、西口駅前広場が再編される際、この部分も広場の一部になり、自動車の地下への通路が新設される予定。この完成後はこれまでの円形の斜路は廃止される見込。
- 新宿の目** 1969 (昭和43) 設置。彫刻家、宮下芳子の作品。高さ3m、幅10mのアクリル製オブジェ。スバルビルの地下部分にあたるがビル解体後も残されている。
- 松岡セントラルビル** 1969 (昭和44) 竣工 SRC 9F・B4F
- 45. モード学園コクーンタワー** 2008 (平成20) 50F 高さ約203m。同所はもともとは松平子爵邸、日本中学、戦後は朝日生命だった場所。学校法人モード学園が経営する、東京モード学園 (ファッション)、HAL東京 (IT系)、首都医校 (医療・福祉) という3つの専門学校が新校舎に入居し、約1万人が通学している。繭 (コクーン) のような外観は学生がここから羽ばたく (羽化する) ことを期待してのもので、白い網状の部分は建物を鳥籠のように外から支える構造体にもなっている。
- 46. 新宿エルタワー** 31F・B5F 高さ124m 1989 (平成元)
- 47. 損保ジャパンビル (旧安田火災海上ビル)** 設計：内田祥三他、43F・塔屋2F・B6F、最高高さ200m、1976 (昭和51) 2002 (平成14) に損保ジャパンビルに名称変更。裾がスカートのように広がった形で、芙蓉グループのシンボルマークである富士山をモデルにしたとも言われる。
- SOMPO美術館** 1976 (昭和51) 東郷青児美術館として開館。洋画家東郷青児が寄贈した自作及びコレクションを中心とした美術館で、旧安田火災海上ビルの42階にあった。敷地内に別棟を新築して2020 (令和4) にSOMPO美術館として移転オープン。
- 48. 新宿新都心歩道橋** 映画「君の名は。」にも登場する場所。大ガード方面を撮影する人が多い。駅周辺の再開発に伴い、駅前のペDESTリアンデッキにも接続している。

49. **新宿野村ビル** 50F・R3F・B5F 最高高さ209.9m 1978（昭和53）竣工

50. **タイムズアベニュー 3期-1工区** 2023（令和5）完成

将来的には大江戸線の新宿西口駅や、さらには東口側のサブナードまでつなぐ計画があるが、未着工。完成時期も未定。

常円寺 創建年代不詳。1585（天正13）に渋谷区の幡ヶ谷近辺から現在地に移ったといわれる。狂歌師、便々館湖鯉鮒（べんべんかんこりう）の狂歌を刻んだ碑（大田南畝（蜀山人）筆、1819（文政2）建立、新宿区指定史跡）や、東京駅や日本銀行本店を設計した辰野金吾の墓などがある。

51. **タイムズアベニュー 2期** 2011（平成23）完成 西新宿駅～野村ビル間の青梅街道の下の地下通路。

52. **タイムズアベニュー 1期** 1997（平成9）完成 都庁～西新宿駅間の地下通路

53. **東京メトロ丸ノ内線・西新宿駅** 丸ノ内線全通時にはなく、1996（平成8）に開業した新駅。

54. **新宿アイランド・アイランドタワー**

設計：住宅・都市整備公団・日本設計 44F・R2F・B4F 高さ189.4m 1995（平成7）

UR都市機構（旧住宅・都市整備公団）東日本・首都圏本部が入居（本社は横浜市）。円形のサンクンガーデン（沈床庭）を作り公共性を確保。外壁は下層が濃い色で上層が薄くグラデーションが掛かっている。パブリックアートが多いのも特色。

東京医科大学病院

1931（昭和6） 東京医学専門学校 附属淀橋診療所として開設。翌年、淀橋病院に改称

1946（昭和21） 東京医科大学の設立に伴い、東京医科大学病院に改称

1985（昭和60） 新病院完成（2019～20に解体） 19F建ての本館は、病院建築としては当時日本最高層だった。

2019（令和元） 新病院完成（現在の本館） S造・一部SRC・RC造 20F・B2F・R1F 高さ88m（最高91.7m）

55. **新宿住友ビル**（住友三角ビル） 設計：日本設計 52F・塔屋2F・B4F 最高高さ210.3m 1974（昭和49）竣工

ビル周囲の公開空地全体に屋根を架け（全天候型アトリウム広場）、国際会議場を新設するなどして足下空間を有効活用し、非常時の一時避難地としても利用するための改修工事を実施。2019年改修完成。

東京水道発祥の地・旧淀橋浄水場蝶型弁 淀橋浄水場で使われていた排水バルブ。蝶型の止水弁は、関東大震災での玉川上水新水路の決壊に伴う施設の改良工事の一環として設置されたものと推定されている。内径1,000mm、1937（昭和12）製造

56. **新宿区立新宿中央公園** 面積8.8ha。新宿区内では新宿御苑・明治神宮外苑・戸山公園に次ぐ面積。もとは熊野神社の敷地の一部で、戦前は六桜社の工場敷地などだった。戦後、新宿副都心計画の一環で工場が移転。浄水場跡地と併せ公園に整備され、1968（昭和43）に東京都立の公園として開園、1975（昭和50）に新宿区に移管された。水が豊富なイメージがあることから、1982（昭和57）に「新宿ナイアガラの滝」と「新宿白糸の滝」がつくられたという。

57. 淀橋浄水場跡 明治維新後の東京で飲料水の水質悪化が問題となり、近代的な水道設備が建設されることになり、内務技師・東京市水道技師、中島鋭治工学博士の「淀橋に浄水場を築造し、芝と本郷に給水所を築造、淀橋以西に新水路を築造する」と言う意見が盛り込まれ、1891（明治24）の市区改正委員会で議決された。1899（明治32）に完成、通水。

関東大震災後、東京西郊の宅地化が進むにつれ、浄水場は新宿西口側の発展を妨げるものと考えられるようになり、大正末期頃から浄水場の移転が地元から要望され始めた。1932（昭和7）に東京市第二水道拡張計画案が提出され、淀橋浄水場の機能を東村山市（現・東村山浄水場）に移転させることが決まった。戦局の悪化で移転は戦後に持ち越された。1960（昭和35）に東村山浄水場が竣工・通水すると、淀橋浄水場は廃止準備がされ、1965（昭和40）に廃止。なお、浄水場の門は、東京都水道局芝給水所に2002（平成14）に移設・復元された。

新宿副都心整備事業 浄水場跡地を副都心としてオフィス街とするために行われた整備事業。1958（昭和33）に新宿は池袋、渋谷と共に、首都圏整備法に基づく首都圏整備計画の一環として、副都心と定められた。1960（昭和35）に「新宿副都心計画」（対象面積96ha）が都市計画決定され、このうち淀橋浄水場跡地を中心とした約56haに対する基盤整備として「新宿副都心計画事業」が定められた。事業の集中化と効率化を図るため、財団法人新宿副都心建設公社が設立され、公社は公共施設の整備と浄水場の移転、跡地の宅地造成を行った。1968（昭和43）事業完了。

浄水場建設時に掘削された沈殿池の底は周囲より約7m低く、新宿副都心整備事業の際、池の跡を埋めるのは費用が掛かることから、この高低差を活用した立体的な計画が構想され、歩車分離が徹底され、内部に交差点のない計画が立案された。各街区の大きさは100×150m程度と、丸の内などの街区・敷地割より一回り大きく、当初から大型のオフィスビル、もしくは当時導入が検討されていた容積率制度を見越して、超高層ビルの建設を想定したものとなっている。計画当初は、絶対高さ規制（軒高31m）の時代だったため、実質500%程度での都市開発がイメージされていたというが、容積率制への移行（1963（昭和38）建築基準法改正）に伴い、新宿副都心地区は容積率1,000%とされ、1964（昭和39）には特定街区制度の見直しにより、更に容積を上乗せすることが可能になり、超高層ビル街化が誘導されることとなった。

58. 東京都庁 設計：丹下健三、1991（平成3）竣工。

第一本庁舎：48F・B3F、最高高さ243.4m。第二本庁舎：34F・B3F、最高高さ163.3m。議会棟の3棟からなる。

上層部を二つに分けた姿、45°向きを変えた頂部、装飾的で出入りの多い壁面など、典型的ポストモダニズム建築といわれる。指名設計コンペによって丹下案が選出されて建設された。設計条件として高層化が求められていたが、磯崎新が敢えて低中層の案を提出したことで話題となった。また、丹下案は他の設計事務所案などに比して圧倒的にデザイン密度が高く、他の追随を許さない迫力を持っていたと云われる。

59. 都営地下鉄大江戸線 都庁前駅

1997（平成9） 都営12号線の練馬駅－新宿駅間の延伸開業に伴い開業

2000（平成12） 大江戸線に改称。同年中に全線が開業